

## 令和6年度稲沢市観光基本計画推進委員会 会議録

【日 時】 令和7年2月20日（木）午後2時～午後4時

【場 所】 稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】 稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

委員長	大澤 健	和歌山大学経済学部教授
副委員長	鈴木 隆	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
委 員	栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授
	西村哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
	古川正美	稲沢市観光協会事務局長
	阿部一洋	稲沢商工会議所事務局長
	小澤康彦	祖父江町商工会事務局長
	花村元気	名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部地域連携部ツーリズム担当課長
	鈴木康仁	尾張大國霊神社権禰宜
	秋田尚孝	国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長
	河治豊弘	愛知県観光コンベンション局観光振興課長
	原田 雅	公募市民

【事務局】 足立和繁 稲沢市経済環境部長  
内藤邦将 稲沢市経済環境部商工観光課長  
加藤敦史 稲沢市経済環境部商工観光課主幹  
山田尚子 稲沢市経済環境部商工観光課主事  
酒井仁志 稲沢市観光協会観光コーディネーター兼事務局次長  
川村英二 稲沢市観光協会事務局次長  
石井好美 稲沢市観光協会事務局主任

【傍聴者】 2名

【会議次第】

- 1 委員長挨拶
- 2 新委員の紹介
- 3 副委員長の選出
- 4 協議事項
  - (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
  - (2) 次年度の取組について
- 5 その他

## 【会議の概要】

### 1 委員長挨拶

[委員長]

本日はお忙しい中、稲沢市観光基本計画推進委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

なぜ和歌山大学の教授がこの席に座っているのかと申しますと、平成30年に「稲沢市観光まちづくりビジョン」を策定した際に携わった御縁から、その後の推進状況について確認する委員会として引き続き委員長をやらせていただいているということでございます。

観光を使ってまちづくりをやっていくという、そうした事例になってほしいという思いを込めて策定した「稲沢市観光まちづくりビジョン」のその後の歩みが、市商工観光課の方々、市観光協会の古川事務局長をはじめとする皆様のご尽力により、毎年着実に実現する形で進んでおり、今回もその報告をお聞きできるのを楽しみにしております。

委員の皆様から叱咤激励をいただければと思いますので、活発なご意見をいただくことを期待しております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

### 2 新委員の紹介

前任委員の異動等に伴い、新たに選任いただいた委員4名の紹介

### 3 副委員長の選出

副委員長に鈴木委員を選出

### 4 協議事項

- (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
- (2) 次年度の取組について

[事務局]

資料「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）後期計画 アクションプラン進捗状況」に基づき説明

## 【質疑応答及び各委員からの取り組みに対する意見】

[委員①]

イベントで観光客を呼ぼうというものが多いが、常設施設を建てて集客をすることは難しいか。例えば他市だと、小牧市のこまきこども未来館や春日井市のぐりんぐりんのよう、子ども関係の施設があって、稲沢市の方も利用している声を聞く。財政的に厳しいと思うが、子どもが楽しめるなら少し遠くても行く人は多いイメージなので、他市からの集客も見込めると思う。

[事務局]

常設施設を建設することは、観光とは少し異なるのではないと思うが、例えば信長の生誕地

である勝幡城跡にランドマークとなるような道の駅の建設等、人が集まれる場所を作るというのは我々としても考えるところ。ただ、構想としてあってもそれを具現化する財力がないというのが稲沢市の現状である。

[委員②]

例えば、祖父江町にある祖父江緑地公園は、遊具もたくさんあり近隣市町からたくさんのご家族連れが来園して楽しんでいただいている。また、平和町にあるらくらくプラザも室内で子どもが楽しめる取り組みをやっていると聞く。そういったところを利用するのも一つの方法かなと思う。

[委員③]

現在、市都市整備課主管で稲沢公園の再整備の検討が行われている。子どもたちが自然と触れ合って遊べるようなスペースを意識して検討を進めているので、是非期待してほしい。

[委員①]

岡崎市に「おかざき世界子ども美術博物館」という場所があり、参考にしてほしい。せっかく「子育て・教育は稲沢で！」をキーワードにしているので、何かできればと思う。

[委員長]

イベントがきっかけになることがある。子育てについても、なにかきっかけがあれば仕掛けてほしい。

[委員④]

自転車で木曾川沿いを走っていただくために、サリオパーク祖父江でサイクリングロードの整備を進めている。最終的には木曾川沿いを結ぶだけではなく、自転車に乗る方が街中にも回遊していただけるように、今後各市町と協力して「自転車でつなぐまちづくり協議会」を立ち上げ進めていきたい。それに伴い稲沢市の観光資源についても確認し、木曾ポタ等の Web サイトに掲載し周知していきたい。

また、資料 32 ページについて、満足度が 35.8%ということだが、これがサリオパークを使うお客さんの生の声でもあると認識している。今後、満足度がもっと上がるように国、県、市と協力しながら進めていきたい。

[事務局]

サリオパークについては、サンドフェスタやいなざわ夏まつりで会場として利用させていただいているが、商工観光課として直接的なイベントはないので、活用方法を検討したい。

[委員⑤]

愛知県全体の観光 Web サイト「Aichi Now」に載せる等協力できる。また、「旅ろっ！愛知」事

業や県の補助制度も利用してほしい。

[委員⑥]

国内外からの誘客やインバウンドにおいて、古来からある歴史・文化が非常に大事であると思っている。そのなかでも資料 10 ページ「近隣市町と連携した広域周遊ルートの設定」について、今年度は実施がなかったということだが、来年度はNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」が始まるので、是非チャンスにさせていただければと思う。名古屋市ではアジアパラ競技大会もあり、かなり注目されると思う。名古屋市から広域に広がっていくルートの一つに、西部エリアにも足を運んでもらえるようなコンテンツを作っていくことも大事な取り組み。パンフレットや情報発信にとどまらず、施策の部分でも一緒に結びつけると非常に良い。

[事務局]

現時点で密接に関わっているのが、勝幡城の関係で愛西市だ。愛西市・愛西市観光協会・稲沢市・稲沢市観光協会で横浜のイベント等で共同出店している。また、信長関係だと小牧市や岐阜市だが、来年度何らかの形で一緒になってやっていけないかと考えており、信長・信長の子孫に関係する市町で構成される信長サミットに、来年度早々加盟し、山形県天童市で開催される会議に初めて参加する。

NHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」については、一昨年前の「どうする家康」と異なり尾張が舞台となる。NHKと組んで何らかの形でイベントができないかと検討している。

[委員⑦]

最終的に情報発信が大事だと思う。情報発信はいろいろな媒体があるが、どれを使ってもお金がかかる。かからない方法を考えると口コミが一番効果がある。例えば、稲沢の高校の同窓会。稲沢市に関わりのある人が集まるので、そういった場でカレーの情報を提供する等、地道に継続してやっていくことが大事だと思う。

資料 32 ページの、令和 7 年度の情報発信として「ご当地グルメ（カレー）の認知度の把握に努める」とあるが、「努める」で終わってしまうのはもったいない。具体的な方針をもって進めていただいた方が良い。

[事務局（観光協会）]

一番即効性があるのはマスメディアだが、広告としてやろうとすると莫大な費用がかかる。いかにメディアに取り上げてもらえるようなネタを発信する必要があるのかなと思う。

団体への具体的な発信については欠けていた点なので、今後やっていきたいと思う。

また、カレーフェスティバルに約 7,000 人もの人が集まった要因の一つとしては、参加した飲食店がかなり Instagram に力をいれていて、相乗効果もかなり大きかったように感じる。カレーを食べてくれた人やお店の人が発信する、我々も発信する、また観光 PR 大使やシティアテンダントも活用しながら情報発信を強化していきたい。

いきなり東京や大阪の人を呼ぶのはなかなか難しいなかで、近隣の市町村や岐阜県の方々を呼

びたいときに情報発信場所をもう少し確保することが課題だと思う。現在、ウインクあいちでパンフレットの配架はしているが、それ以外になかなか置く場所がない。委員の皆さんのネットワークも使いながら、パンフレットを置けそうな場所があればご教授いただければと思う。

[委員⑧]

最近、神社でも同窓会が行われていた。パンフレットをお持ちいただければ配ることはできる。ロータリークラブにも会場を貸しているの、活用できるのではないかな。

[委員⑨]

“観光”というものをどう捉えるかは個人差があるのだなと感じた。稲沢市としては市外からの流入を考えていかなければならないが、そのきっかけの一つとなるのも“観光”なのではないか。“観光”を目的に稲沢市に来て、稲沢市の良さを知ってもらうことによって、住む場所として稲沢市を選択してもらえるようなトリガーとして、“観光”が寄与することもあり得るのかなと思う。

[委員⑩]

今年度、28回目のそぶえイチョウ黄葉まつりを開催した。9日間開催したが、土日は大変混雑した。メディアで取り上げていただくことも多く、関西や関東からも問合せいただいた。また、コロナ明けから外国人観光客も増えたが、外国人観光客に対して配布するマップ等がまだ用意できていないため、来年度作成する予定。

まつりのなかで、体験型のイベントとして紙飛行機大会やポニー乗馬体験、コースター作りなどを行っているが、今後は小さいお子さんが参加できるイベントを考えていきたい。小学生・中学生の来場は少なく、未就園児を連れた親御さんやご年配の方が多い現状を考慮してイベントを考えていきたい。何かアイデア等あれば、是非ご教授いただきたい。

[委員⑪]

一宮市民でカレーのことを知らなかったという意見があったが、近隣の方にも届いていないことに驚いた。逆に、一宮市まで届けば、足を運んでいただける可能性があるということだと思う。情報発信は大事だと改めて感じた。銀行やコンビニ等、老若男女問わず使う施設等にチラシを配架してはどうか。また、カレーフェスティバルでInstagramの投稿画面を見せたら100円引きにする等も良いのではないかな。

[事務局（観光協会）]

関心を持っていない人にいかに情報を届けるかということが大事。アンテナが低い人に情報が届いて、初めて届いたと言えるのかもしれない。近隣の道の駅や観光協会を通じて様々なPRをしているが、まだまだ発信が足りないと反省した。委員の皆さんや組織含めて協力して発信を強化するのが一番大切だと思っているので、委員の皆さんにも発信に協力をお願いしたい。

[事務局]

3年間取り組んで、特効薬はないのだと実感している。一つずつ地道にマスコミ対応やパンフレット配架をやっていくことで、徐々に知名度が広がっていくと思うので、観光協会と協力して引き続き頑張っていきたい。

[事務局（観光協会）]

先ほどから、イベントと、広域連携について話が出ているので、現在取り組んでいることを話したい。稲沢市では、イベント期間中、駐車場や周辺道路がいっぱいになるくらい人が集まるが、平時はあまり人がいない。だからこそ、あの手この手を打ってイベントを開催し、来てもらうようにしているとも言える。イベント時以外にも人に来てもらうことが課題だ。箱モノがあれば良いが、ひっ迫する財政状況の中でなかなか新しい施設は建てられない。必ずしも名所や旧跡がなくても人に来てもらうために、新しく“オンパク”（地域の人が主体的に参加・主導できる場）を開始したい。

広域連携については、歴史という面では信長を通じた繋がり等あるが、新たに、木曾川沿いでの一宮市・稲沢市の連携が市民団体を中心に出来つつある。環境と遊びをテーマに、若い世代にこの地域の良さを伝えていくという取り組みで、まだ十分な形にはなっていないが、今後観光協会としても支援していきたい。もう少し具体化すればまた報告したい。

[委員長]

意見は出尽くしたようなので、事務局は、本委員会での意見を踏まえ、観光まちづくりビジョンの推進に努めていただくようお願いしたい。

委員の方、市役所、観光協会がフラットの立場で語り合える、このような場があることはいい流れだと思うので、来年も新たな進捗を報告していただけることを楽しみにしている。

## 5 その他

[事務局（観光協会）]

稲沢市観光協会から、第19回いなざわ梅まつり（3月1日・2日／愛知県植木センター）、にっぽん城まつり（3月1日・2日／吹上ホール）について紹介。

[事務局]

本日付で委嘱した委員の任期は2年間で令和8年2月末までとなる。次回の開催は1年後の令和8年2月頃を予定しているので、開催の際には再度参集をお願いしたい。年度替わりの人事異動などで交代となる方には、後任の方への引継ぎと事務局への連絡をお願いできればと思う。

以上